

特集

自己治癒力を高める 技法とエビデンス

人の身体が本来備えている回復のメカニズム——自己治癒力。ナインゲルをはじめとして、看護の先人たちは、患者の療養環境を整え、個々の患者の自己治癒力を最大限に引き出すことの重要性を明確に打ち出してきました。近年、疾病構造が慢性期中心に移行し、医療の中心が外来・在宅へ移行するなか、代替療法を含めた「自己治癒力を高めるケア」への注目が高まっています。ヨガ、アロマといった代表的な代替療法だけでなく、言葉かけなどのコミュニケーションスキル、あるいは動作法など、心理的アプローチが自己治癒力にもたらす効果が明らかとなりつつあります。

「自己治癒力とは何なのか？」それを引き出す介入は、どれくらい有効性と根拠をもっているのか。本特集では、「自己治癒力」をキーワードに、代替療法を含めた種々の介入法とエビデンスを科学的、論理的にご紹介します。

「自己治癒力」とは何か？——精神神経免疫学の考え方と実践例

川村則行

ナースのための 自己治癒力を高める患者対応 飯森洋史

カウンセリングの基本から学ぶ話の聴き方 宮田敬一

統合医療のエビデンス——アロマとヨガに焦点をあてて

山田久美子

動作法の実践とエビデンス 長谷川明弘

集団療法が自己治癒力に及ぼす影響 宮崎隆穂

特別記事

医療の原点としての緩和医療、 そして延命治療

伊藤真美

招待席

がん患者の「語り」をデータベース化する試み 和田恵美子さん

編・集・後・記

●頭と身体、という言い方があります。頭で考えるより身体を動かしたほうが早いとか、身体で覚えろ、とか。でも、よくよく考えてみると、脳だって他の内臓と同じく「身体」なんですよ。発生的に脳と腸は近いという説もあります。「頭と身体」の境界線は、実際にはかなり不明明なのでしょう。

今号の鼎談で内田樹氏が「他人の頭を自分の身体に載せる」という話をされています。「知」が身体中のいたるところに偏在しているのだとしても、その性質には違いがある。クリアカットで有意義な「知」はやはり「頭」が作り出すものなのでしょう。しかし、人間の「知」全体がクリアカットなものだけでできているわけではない。特に看護実践のような、混沌とした人間存在の全体性を扱う現場では、頭が切り捨ててしまう「ノイズ」をつぶさに拾い上げる、文字通りの意味の「身体知」が求められるのではないのでしょうか。【鳥居】

●『FUCK』というドキュメンタリーが去年の12月に公開されました。この単語を通して、言論の自由と規制について考える、痛快な映画でした。これほどさまざまな形や意味で使われている言葉もないだろうというFUCKですが、もともとは性行為を指すものです。映画のなかである女性が「SEX」というと温かく包む感じで、FUCKは荒々しい感じ。どっちもいいものよ」と言いますが、私も同感です。その戦場的な語感からも、欲情に素直な印象があるからです。

さて、日本での性行為を示す言葉はどうでしょう？ 妙に定着している「エッチ」はバカバカしい「性生活」は嘘くさい。「夫婦生活」に至っては「夫婦の生活＝ファックなのか!？」と憤りすら感じます。医療者として、というよりも1人の成熟した人間としては、ファックとまでは行かずとも、せめてセックスと言いたいものです。そこが「性に向き合う」入り口だと思うのです。【大野】

看護学雑誌 第72巻第2号 2008年2月1日発行(毎月1回発行)

発行/株式会社医学書院 代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2008, Printed in Japan

1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%) 年々めり約購読料 13,200円(税込、送料弊社負担)

・定期購読のお申し込み先/(株)医学書院販売部 TEL 03-3817-5659

・第69巻以前のバックナンバーのご注文先/(株)東亜ブック TEL 03-3985-4701

『看護学雑誌』編集室(担当/鳥居・大野) TEL 03-3817-5772

E-mail kangaku@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(TEL 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0386-9830/08/¥250/論文/JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。